第２回京都市観光振興審議会

主な御意見

日　時　　平成２６年７月１５日（火）午後１時～午後３時

会　場　　京都市消防庁舎７階　作戦室

・　先人が築いたものをしっかりと引き継いで，他の自治体や世界の人々が，京都の観光政策を参考にするようなものにしなければならない。

・　世界の中において，京都はどのような都市なのかという視点を持ち，世界の中の京都を意識することが重要である。

・　観光振興を通じて，どのような都市の姿を目指すのかを　明確にすることは大変重要であり，世界からの「あこがれ」，「尊敬される京都」を目指すというのはわかりやすい。

・　京都の精神性，つまり茶道・華道等の伝統文化の本質をつきつめることを基軸に置く。京都の精神性を観光客に考えてもらうことで，京都の深みがわかる。

・　少子高齢化による国内旅行客の減少，特に，よく旅行に出かける団塊世代層が６５～７０歳に差し掛かっており，これに続く世代の人数は急激に減少する。今の状態を維持するのも大変であるという危機感を共有することが重要である。

・　国内市場の縮小，海外客のあらゆる角度からの囲い込み等，京都観光の構造的な変化に対応できる我々の変化対応力が必要であり，受入強化や備えをしっかりしていくことが重要である。

・　「おもてなし」は「思いやり」であり，思いやりを持つと感謝が生まれる。感謝の言葉とし

て京都には「おおきに」という言葉があるため，「おおきに」を広めることが「おもてなし」につながるようにならないか。

・　「おもてなし」の研究はやはり重要なことであり，「おもてなし」を学術的に研究しようと準備している。皆様の御協力をお願いしたい。

・　２０２１年のワールドマスターズゲームズも視野に入れた計画にするべきである。

・　２０２０年に目指す姿を明確に打ち出す。東京オリンピック・パラリンピックを機に世界にどのように発信するか，次期計画では世界に打って出るということであろう。

・　京都の価値観からすると，戦略という言葉やアジアで１位の歴史都市を狙うという表現などは違和感がある。京都は歴史的な深みをきちんと伝えられる都市であり，日本人の精神性などの京都らしさの原点を考えていく必要がある。

・　観光は世界的な一大産業の一つである。大学のまち京都の特性を生かして，観光経営学に関する高等教育機関を創設し，京都が観光経営学の頂点となればよい。

・　旅行者をあたたかくお迎えする「おもてなし」の心がつまった「京都市市民憲章」があるが，学校で教わったり，市民みんなが共有する必要がある。

・　パラリンピックが世界的に重要な意味を持つようになっている。ユニバーサルツーリズムの推進やバリアフリー化は重要である。

・　宿泊することで京都観光の面白さ・楽しさ・感動などが理解できるような仕組みをつくるなど，宿泊を増やす仕掛けづくりが必要である。

・　市民が観光客向けに新たな事業等を行う際，様々な事業者等とのマッチングを行うなど，行政の協力を得られるとありがたい。

・　着物などの高い買物をしてもらうためには，伝統産業品や京都の街自体に付加価値を付け，同時に信頼を高めていくことが課題である。

・　外国人観光客に対しては，日本の多面的な魅力を知ってもらうことで宿泊の増加につながるため，京都とは異なる魅力を持った他の地域等との連携が重要である。

・　京都には，和食はもとより，京都らしさを備えた上質のフレンチやイタリアンのレストラン等がたくさんある。京都人が日常利用しているこのような施設を掘り起こし，観光客にうまく伝える仕組みが必要である。

・　質の向上は観光消費額の増大としてもとらえられるため，定量的な目標を設定することは，目標を共有してオール京都で取り組むという姿勢につながる。

・　指標の設定に当たっては，計算の積み上げで設定するのではなく，大きな目標を掲げるという違った視点も必要である。

・　おもてなしの精神性について計るような，新たな指標を京都が作り，発信してもよい。

・　外来語によるカタカナ標記など，一般的にわかりにくい標記が見受けられる。